

令和6年 第1回定例会

いっぱんしつもん

3月6日に、3名の議員から町行政に対する一般質問がありましたので、要旨をお知らせします。

本町における交通の課題と ライドシェアの活用について

Q 日本版ライドシェアが要件付きで解禁となるが、町として考え方を伺う。

A 地域、時間帯の限定が解除された場合、本町においても調査研究し検討していかなければならないと考えている。



渡辺 倫代 議員

渡辺議員 ①今年3月末で、深川北竜線の廃止が決まっています。当町では9区、8区、6区などの停留所に停まるバスがなくなり、通学や通院に影響が出ると考えられる。北竜町では、北竜町地域公共交通計画を改定し、町営バスを妹背牛まで運行し、JR妹背牛駅や、深川滝川線にアクセスする方法がとられる予定。町独自で町民の足を確保するための対策をお考えなのか、

また北竜町とこの件に関して協議はされたのか伺う。

②広域での対策は、2年前には、「地域公共交通計画の策定に向けて、専門のコンサルタント会社に業務委託している」と答弁された。明らかに現在の現状と課題を基にどのような協議されたのか、北空知圏域で住民の移動になにか選択されたのか伺う。

③ライドシェアをめぐる制度改正が今年4月に行われ、日本版ライドシェアが要件付きで解禁となる。鈴木知事は、ライドシェアを過疎地で検討する考えを示している。町としてライドシェアに関する考え方と、北空知圏域での考えを伺う。



企画振興課長

①通学者についてはスクールバスの混乗を考えており、通院者は高齢者等交通費助成制度を引き続き利用していただきたい。町内での買物については商工会で実施しているお買い物物おもとなし事業を利用していただきたい。また、北竜町で運行する予定の自家用有償旅客運送バスに乘車できるよう現在北竜町と協議している。

②人口減少、自家用車による公共交通の利用の減少や乗務員不足などにより交通事業者の経営は一層厳しい状況。スクールバスや福祉輸送、民間事業者の送迎サービスなど地域の多様な輸送資源も最大限活用し、持続可能な移動手段の確保が必要と考えている。そして、バス事業者へ沿線自

治体で赤字全額補填をし、今あるバス路線を維持することが重要と考えている。

③ライドシェアについて、政府は4月に一部解禁された実績を踏まえ、6月までにタクシー会社以外にも参入を含む全面解禁について結論を出す予定とされており、地域、時間帯の限定が解除された場合、本町においても調査研究し検討していかなければならないと考えている。北空知圏域振興協議会では、現在ある生活交通の維持確保を最優先とし、先進事例の研究についても進めていかなければならないとし、次年度以降も継続協議する予定。

町長

妹背牛町として何ができるのか、どの方向に進むべきなのかを具体化する必要がある。そしてタクシー会社、地域の方々とランドデザインを練り上げてから北空知圏域での話し合いに持っていきたいと考えている。現実的な課題として町民の足を守るといふ方向で検討を進め、北空知圏域での協議につなげていきたい。

人口減少問題への 今後の対策について

Q 人口減少問題について対応、対策が問われるところと考えるが、現時点での考え方を伺う。

A ここ数年、移住施策の新設、拡充を行っており、転入者も増えている。引き続き町の状況を考えながら毎年制度の見直し、新設を継続していきたい。



小林 一晃 議員

小林議員 昨年12月23日の北海道新聞に2050年の道内市町村の人口推計が報道された。本町の人口は現在の2635人から988人、14歳以下の子供は47人まで減少することが予想されている。今後本町は町として生きのりをはけた対応、対策が問われるところと考えるが、現時点での考え方を伺う。

企画振興課長

北海道新聞の

記事については国立社会保障・人口問題研究所が2020年の人口などをもとに推計しているもの。2015年に妹背牛町人口ビジョンを策定した際に同機関が2010年の数値をもとに出した2050年の人口推計は1224人であった。この10年間に230人以上少なくとも必要は本町が移住施策を積極的に行つてこなかった事だと考えている。しかしその後令和2年度より移住施策の新設、拡充を行っており、ここ数年の転入者も増えている。引き続き町の状況を考えながら毎年制度の見直し、新設を継続していきたい。

町長

定住促進事業は適宜見直しをしており、令和6年度より住宅新築支援の増額を行う。また、新規就農経営安定助成金を新設し予算を計上している。今後も町内の状況を注視し人口減少対策を行っていききたい。

行き届いたこまめな除排雪と 生活の足の確保について

Q 高齢者の独居老人の方々に対しての対処、対応について伺う。

A 本町では除雪が困難な高齢者等に対し、冬期間の生活道路の確保のため高齢者事業団に委託し除雪を行っている。



田中 春夫 議員

田中議員 今年の冬も大変厳しい冬を過ごし、降雪、積雪も昨年よりあるように感じられた。町道では車がすれ違ふことができず譲り合つて行き交いし



③ 町民から要望や苦情は来ているか。
④ 今後の除雪、排雪の計画について伺う。

建設課長

① 令和4年度の降雪量は739センチ、積雪深の最大は130センチ。令和5年度は3月5日までの降雪量は758センチ、積雪深の最大は124センチ。

③ 今年度の要望、苦情は8件で、多かったのは空き家の落雪が道路を塞いでいるというもの。

④ 新雪除雪については今までどおり10センチ以上の降雪があった場合に出動。市街地の排雪については2月26日より3回目を実施しており、4回目の予定はない。

健康福祉課長

② 本町では除雪が困難な高齢者等に対し、冬期間の生活道路の確保のため高齢者事業団に委託し除雪を行っている。



ていた。また、交差点や丁字路の道路に出ようとすると、車が来ていないか目視するため車の先端を少し出し、事故に遭わないよう気を付けている様子もよく見かけた。行き届いたこまめな除排雪、生活の足の確保について伺う。
① 昨年と比べたこの冬期の積雪、降雪量について伺う。
② 高齢者の独居老人の方々に対しての対処、対応について。